

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-289292

(P2007-289292A)

(43) 公開日 平成19年11月8日(2007.11.8)

(51) Int. Cl.

A47K 3/02 (2006.01)

F I

A47K 3/02

テーマコード (参考)

2D032

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2006-118550 (P2006-118550)
 (22) 出願日 平成18年4月21日 (2006.4.21)

(71) 出願人 000000479
 株式会社 I N A X
 愛知県常滑市鯉江本町5丁目1番地
 (71) 出願人 000150006
 日本総合住生活株式会社
 東京都千代田区神田錦町1丁目9番地
 (74) 代理人 100086520
 弁理士 清水 義久
 (72) 発明者 小山 広志
 愛知県常滑市鯉江本町5丁目1番地 株式
 会社 I N A X 内
 (72) 発明者 居波 邦明
 東京都千代田区神田錦町1丁目9番地 日
 本総合住生活株式会社内

最終頁に続く

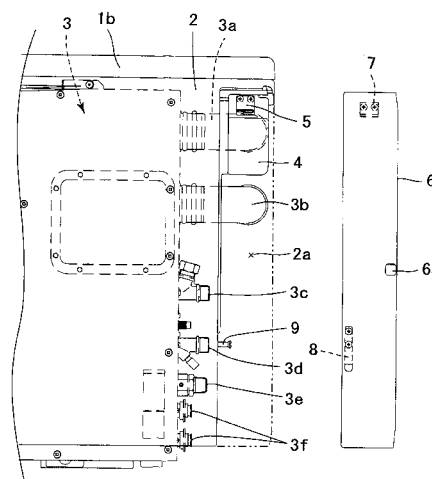
(54) 【発明の名称】 浴槽エプロン構造

(57) 【要約】

【課題】エプロンの裏側に風呂釜が設置されている場合でも、高温部に注意する必要がない浴槽エプロン構造を提供する。

【解決手段】浴槽エプロン2に作業口2aを設け、この作業口2aには着脱可能な作業口蓋6が取り付けられる浴槽エプロンにおいて、作業口2aには、作業口蓋6を取り外した状態でも作業口2aの一部を覆い風呂釜の排気筒3aをカバーできるカバー部4が設けられている。

【選択図】図4



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

エプロンに作業口を設け、該作業口には着脱可能な作業口蓋が取り付けられてなる浴槽エプロンにおいて、

前記作業口には、前記作業口蓋を取り外した状態でも該作業口の一部を覆うことのできるカバー部が設けられていることを特徴とする浴槽エプロン構造。

【請求項 2】

前記カバー部の前面には、前記作業口蓋を前記作業口に取り付けるための金具が設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の浴槽エプロン構造。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、浴槽のエプロンの構造に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

従来、特許文献 1 に開示されているように、浴槽の洗い場側に立設されるエプロンに作業口を設け、この作業口と同じ大きさの作業口蓋を、作業口に着脱可能に覆設した構造が存在する。

【特許文献 1】特開 2002 - 369757 号公報

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0003】**

浴槽エプロンに作業口を設ける場合、点検作業が容易なように、作業口はできる限り大きい方が好ましいが、浴槽エプロンの裏側に風呂釜を設置するような場合には、風呂釜の排気筒が作業口蓋を開けた時に露出して、この風呂釜の排気筒が高温であるため、相当注意しなければならないという問題点があった。

【課題を解決するための手段】**【0004】**

本発明は上記従来の問題点に鑑み案出したものであって、作業口を大きく形成することができ、またエプロンの裏側に風呂釜が設置されている場合でも、高温部に注意する必要がない浴槽エプロン構造を提供するものであり、その請求項 1 は、エプロンに作業口を設け、該作業口には着脱可能な作業口蓋が取り付けられてなる浴槽エプロンにおいて、前記作業口には、前記作業口蓋を取り外した状態でも該作業口の一部を覆うことのできるカバー部が設けられていることである。

【0005】

また、請求項 2 は、前記カバー部の前面には、前記作業口蓋を前記作業口に取り付けるための金具が設けられていることである。

【発明の効果】**【0006】**

本発明は、エプロンに作業口を設け、該作業口には着脱可能な作業口蓋が取り付けられてなる浴槽エプロンにおいて、前記作業口には、前記作業口蓋を取り外した状態でも該作業口の一部を覆うことのできるカバー部が設けられていることにより、風呂釜がエプロンの裏側に設けられている場合でも、風呂釜の排気筒がカバー部でカバーされるため、作業口蓋を取り外して作業口を開けた時にも、排気筒等の高温部に触れる可能性が少なくなる。また、排気筒等の高温部がエプロンの裏側に配置されない場合には、カバー部を切り欠くことで作業口をより大きくとることができる。

【0007】

また、前記カバー部の前面には、前記作業口蓋を前記作業口に取り付けるための金具が設けられていることにより、カバー部に設けられた金具に対し作業口蓋を良好に着脱可能に取り付けることができるものとなる。

10

20

30

40

50

【実施例】

【0008】

以下、本発明の実施例を図面に基づいて説明する。

図1は、浴槽の側面構成図であり、また図2は、平面構成図である。なお、図3は、右側の作業口蓋6を取り外した状態の浴槽の正面構成図であり、図4は、図3の要部拡大構成図である。

浴槽1の浴槽壁1aの上端にはフランジ部1bが一体形成され、このフランジ部1bに、洗い場側においてエプロン2が垂設されて取り付けられており、このエプロン2と浴槽壁1a間の空間内に風呂釜装置3が配置され、風呂釜装置3の配管接続作業や点検のためにエプロン2の左右端側には作業口2a、2aが形成されて、作業口2aには着脱可能に作業口蓋6が取り付けられている。 10

【0009】

なお、風呂釜装置3には、上方側から排気筒3a、給気筒3b、出湯管接続部3c、給水管接続部3d、ガス管接続部3e、追い焚き循環配管接続部3f、3fが側方に突出されており、排気筒3aおよび給気筒3bは、浴槽1の側面に水平に回されて配管されており、排気筒3aは風呂釜装置3が運転されることにより高温となるものであるが、この排気筒3aの前面を覆うようにエプロン2から一体状に作業口2a内に突出してカバー部4が設けられている。

【0010】

なお、このカバー部4は、作業口2a内の上端側に配置されたものであり、作業口2aはエプロン2の下端に至る広い開口面積に形成されており、作業が容易に行えるように構成されている。 20

この作業口2aには着脱可能に作業口蓋6が取り付けられるものであり、作業口蓋6の表側に指を入れて引っ掛けることのできる手掛け部6aが凹み状に形成されており、作業口蓋6の裏側の上部には上掛止金具7が、また裏側の下端には下掛止金具8が取り付けられている。

【0011】

また、図4に示すように、エプロン2側から作業口2a内に突出してダボ9が設けられており、図6に示すように、このダボ9に作業口蓋6の裏側の下掛止金具8を上方より差し込んで係合させ、その状態で作業口蓋6の上部部位を浴槽壁1a側に押すことで、作業口蓋6の上掛止金具7がカバー部4に取り付けられている金具5に掛止されて、作業口蓋6が作業口2aに取り付けられるものであり、作業口蓋6の取付状態は図7に示す。 30

作業口蓋6を取り外す際には、手掛け部6aに指を入れて上方に押し上げることにより、良好に作業口蓋6を容易に取り外すことができるものである。

【0012】

なお、図5の作業口蓋6を取り外した状態のエプロン2の正面構成図で示すように、カバー部4の前面の金具5の下方側に高温注意ラベル4aを貼っておけば、より排気筒等の高温部に触れる可能性が少なくなるものである。例えば、高温注意ラベル4aには、「この裏には高温の配管があります。ご使用後1時間は奥には手を入れないで下さい。」等の説明書きを設けておけば良い。従って、作業口蓋6を取り外した時にも、このような高温注意ラベル4aが目につき、注意することができるものとなり、また、カバー部4により排気筒3aの前面は覆蓋されているため、手が排気筒3aに触れることが防がれ、作業等を安全に行うことができるものとなる。 40

【0013】

なお、本例では、作業口2aはエプロン2の左右両側に開口されているが、一方側に開口されたものであっても良く、また作業口2aは、エプロン2の中央部等の他の箇所にも開口されたものであっても良い。

なお、作業口2aがエプロン2の右端または左端側に開口されているような場合には、現場においては、壁面等からガスコック等の突出物が作業口2a側に突出している場合があり、そのような場合、現場で作業口蓋6を適宜切り欠いて、ガスコック等の突出部との 50

干渉を避けることができ、エプロン 2 そのものを切り欠く必要がなく、現場での設置作業等を容易に行えるものとなる。

【 0 0 1 4 】

なお、図 6 および図 7 において、図中 1 0 は、浴槽 1 側からエプロン 2 側へ延びる支持金具であり、この支持金具 1 0 にエプロン 2 の裏側下端に設けられたエプロン金具 1 1 を掛止して、エプロン 2 が取り付けられるものである。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 5 】

【図 1】浴槽とエプロンの間に風呂釜装置が配置されている浴槽の側面構成図である。

【図 2】図 1 の平面構成図である。

【図 3】作業口蓋を取り外した状態のエプロンの正面構成図である。

【図 4】図 3 の要部拡大正面構成図である。

【図 5】カバー部の前面に高温注意ラベルを貼着した場合のエプロンの正面構成図である。

。

【図 6】作業口蓋を取り付ける前の分解側面構成図である。

【図 7】作業口に作業口蓋を取り付けた状態の側面構成図である。

【符号の説明】

【 0 0 1 6 】

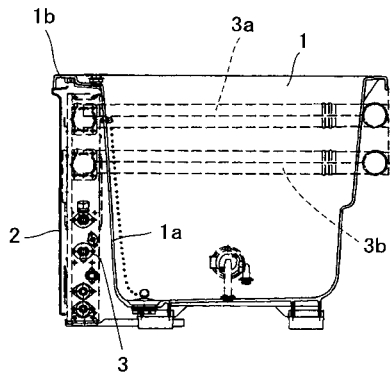
- 1 浴槽
- 1 a 浴槽壁
- 1 b フランジ部
- 2 エプロン
- 2 a 作業口
- 3 風呂釜装置
- 3 a 排気筒
- 3 b 給気筒
- 3 c 出湯管接続部
- 3 d 給水管接続部
- 4 カバー部
- 5 金具
- 6 作業口蓋
- 6 a 手掛け部
- 7 上掛止金具
- 8 下掛止金具
- 9 ダボ

10

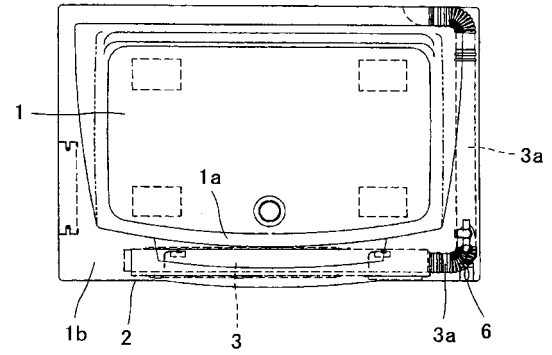
20

30

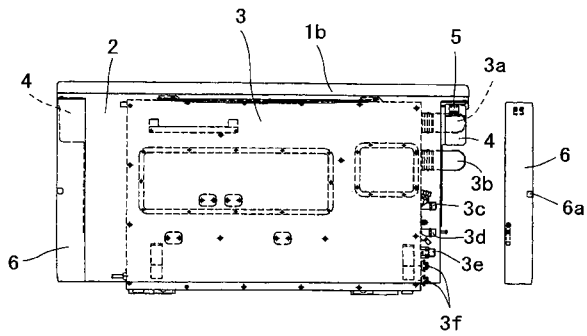
【図 1】



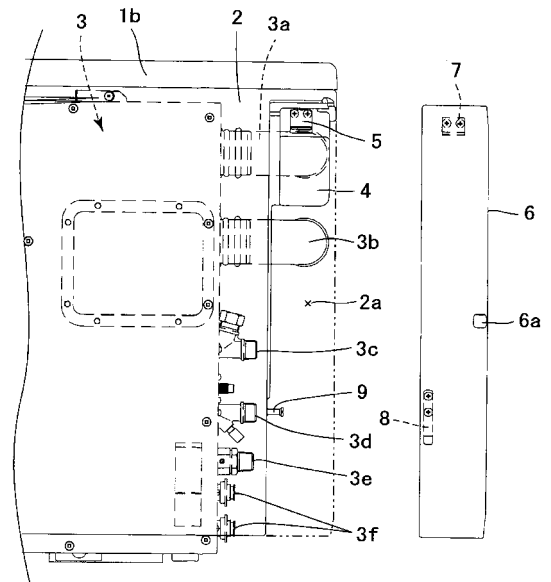
【図 2】



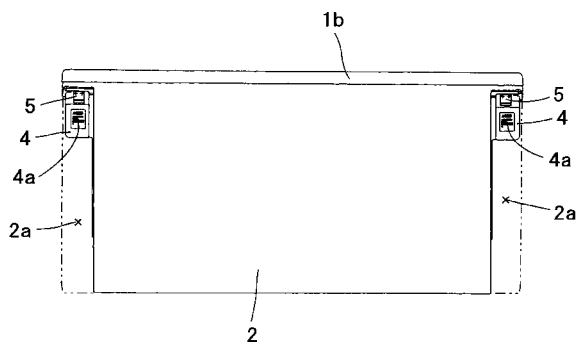
【図 3】



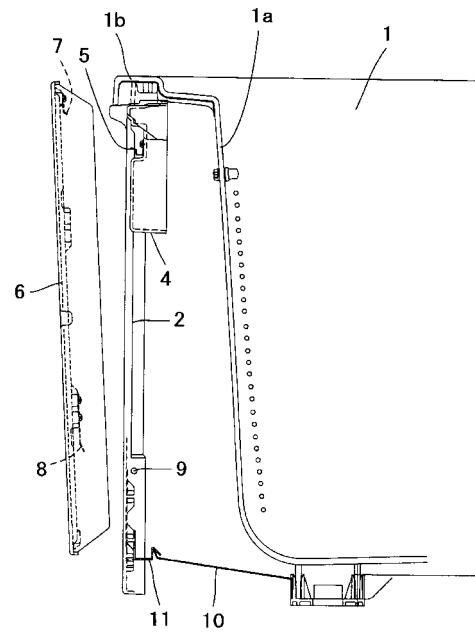
【図 4】



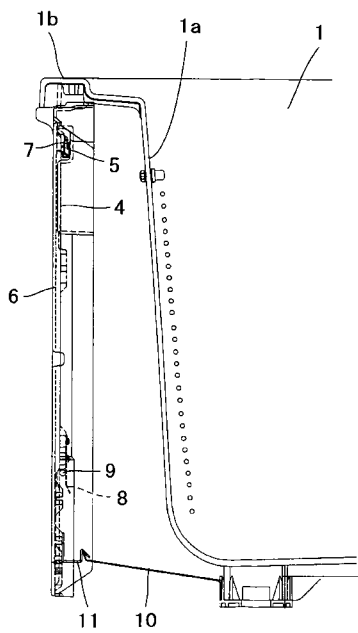
【図 5】



【図 6】



【図 7】



フロントページの続き

(72)発明者 北林 健一

東京都千代田区神田錦町 1 丁目 9 番地 日本総合住生活株式会社内

F ターム(参考) 2D032 AA19 AA20